

※ 池田鉄工(東) ※

# 地元小学生が工場を見学

## 鉄骨建方の体験なども企画

東京のMグレードファブ、池田鉄工(本社・杉並区、池田和隆社長)は地域貢献と業界PRを兼ねて地元小学生による工場見学の受け入れを始めた。今回が初となる見学会は11月2日と4日の2日に分けて行われ、大野台小学校5年生と引率教員約80人が同社の相模原工場(神奈川県相模原市)を訪れ、鉄骨製作工程の見学と建方体験などを通じて鉄骨構造の基本を学んだ。

はじめに池田社長が歓迎のあいさつを述べた後、児童各工程を見学。途中、児童らは遮光ゴーグルを着用して鉄骨部材の溶接工程を間近で見ることができ、作業の様子に興味深げに観察している姿が見受けられた。また、工場2階に鉄骨建造物の基本構造を学ぶための2つの体験コーナーが設けられ、安全に十分に配慮し、同社社員の説明と指示



溶接工程を間近で見学

工場内では鋼材一次加工(孔あけ・切断・開先・シヨットブラスト)からスタートし、製作手順に沿って各工程を見学。途中、児童らは遮光ゴーグルを着用して鉄骨部材の溶接工程を間近で見ることができ、作業の様子に興味深げに観察している姿が見受けられた。また、工場2階に鉄骨建造物の基本構造を学ぶための2つの体験コーナーが設けられ、安全に十分に配慮し、同社社員の説明と指示

に従って児童らが慣れない手つきで作業に従事した。その一つ「鉄骨造模型の組み立て」コーナーでは、鉄骨造を構成する柱、梁、ブレースに見立てた部品をボルトで固定していく鉄骨造模型の組み立てに挑戦。もう一つの「鉄骨建方とクレーン操作」コーナーでは、ともに長さ約1.5mのH形鋼

梁と角パイプ柱から成る骨組みの完成を目指し、梁材を所定の位置に移動させるクレーンの操作、電動工具と六角レンチを使った柱梁接合部や柱脚部へのボルト



鉄骨建方作業を疑似体験

締結を行うなど建方工事の主要工程を疑似体験した。工場見学と各種体験を終えた児童からはさまざまな質疑が寄せられた。1日の生産量や鉄骨造の建設コスト、必要な免許の種類、溶接時の温度などのほか、社員の給与といった答えづらい質問に笑いが起こる場面もあり、見学会は盛況のうちにも幕を閉じた。同社は12月にも大野台中央小学校6年生の工場見学を受け入れる予定で準備を進めている。

池田社長は工場見学の受け入れを始めた経緯について「地元の子どもたちに教育の場を提供し、地域社会に貢献したいと考え、当社から学校側に働きかけて実現した。将来のある児童らに鉄骨製作工場や鋼構造物工事業について知ってもらうことも狙いで、この機会に鉄骨業界をPRしたい。さらに、見学に訪れた子どもたちに仕事の苦労ややりがいなどを説明していく中で当社社員が自らの業務への誇りと自信を深めてくれればと思う」と語った。